

認定特定非営利活動法人 まちづくりネット東近江

## 1. はじめに

私たちは「誰もがまちの創り人になる社会をつくる」ことを目指し、「思いを形にした人達のあゆみに寄り添う」ことをミッションに活動をしている。

人口減少や少子高齢化が急速に進み、人間関係や地縁的なつながりが希薄化する中、地域では、様々な課題が山積している。

こうした課題を解決するためには、市民が社会のニーズを把握し課題解決に向けて主体的に取り組むことが大切だと考え、市民の主体的な活動を応援するため「つながる」「ひろがる」「支え合う」のテーマで活動を行う。また、さまざまな要望に応えるために、市民の相談に応えるための仕組みづくりや他地域の中間支援団体との情報交換を行うことで、社会情勢を見極め事業へと活かしていく。

「NPO は一歩先の視野、半歩先のプログラム」が大切といわれる。その中でも中間支援は「二歩先の視野、一歩先のプログラム」といわれるように高度なスキルと、社会からの要請と自らの志をもって活動していくことを目指す。

テーマ	事業内容
つながる	・ 交流促進と協働推進
ひろがる	・ 情報収集と発信 ・ パブリックアクセス推進
支え合う	・ 相談・コンサルティング ・ 活動資金の調達支援事業

## 2. 事業内容

## 【つながる】

私たちのまわりには、社会の役に立ちたいという人々がたくさんいる。そうした人々に「つながる機会」を提供して、多くの人とともに課題を解決していく状況を作り出す。「ほってはおけない」「何とかしたい」といった人たちの思いに寄り添い、市民の力を生み出す以下の活動を行う。

## (1) 市民活動推進交流会～わくわくこらぼ村～

第5回目となる「市民活動交流会～わくわくこらぼ村」では、参加団体によるコラボ企画を実施したところ、「わくわくこらぼ村で他団体とつながることができた」と96%の団体がアンケートを回答する結果となった。今年は、協働を進めるためにもう一歩深まる取組が必要になる。

また、わくわくこらぼ村には団体の交流とともに一般来場の市民に市民活動を知ってもらう目的もあり、市民が参加できる企画を検討するため実行委員は広く募集する。協働の必要性や協働を進めるための意識改革などを行いたい。

- ・企画に関する業務
- ・運営に関する業務（開催当日まで）
- ・運営に関する業務（開催当日）

## （２）『共に考え共に創る』わがまち協働大賞

『共に考え共に創る』わがまち協働大賞も４年目を迎え、ノウハウも固まりつつある。今後の運営方法については協働推進委員会でも議論があり、検討を行う。まだ市民の認知は低いので、「協働」を広くPRすることとして進めていく。

## （３）交流促進と協働推進

引き続き、時々のテーマによって交流とつながりを目的に「ええより」を開催する。活動団体のフィールドへ出向き、テーマによりじっくり話し合う機会をつくるなど変化させ、多様な市民の活動に寄り添い、交流の機会を作る。ボランティア希望者や団体の要請はホームページに掲載し、チラシの配布などもあれば積極的に広報する。

また、初めて市民活動に取り組もうとする人々向けの支援として、共催の形で進めながら、広報の配布や当日運営を共に行い自立へ導く。

- ・多分野連携で市民活動・地域活動を活性化するために交流会の開催
- ・まちづくりに関わる多様な主体間の連携・ネットワークの構築
- ・活動団体・事業者との行政との協働の促進・コーディネート
- ・ボランティア希望者と受け入れ団体のコーディネート
- ・市民活動を促進するフォーラムやイベントの開催に向けた調査・検討・企画

## （４）ラウンドテーブル運営委員会

オファー型への対応も取り入れつつ、運営のスキルアップと多様な地域課題に積極的に取り組む。運営委員会と協力しながら「まちのわ会議」の開催を通して、課題の共有化や解決への導きを行う。

- ・協働のラウンドテーブル運営委員会の運営支援

## （５）地域循環共生圏構築検討事業

環境省からの委託を受けて、住民参加型の課題解決につながる関係団体と連携して事業を進める。

## 【ひろがる】

活動を通じて感じたことや考えたことを周囲に発信することは、その発信を通じて、取り組む課題や活動が広く社会に共有され、共感者を増やしていくことにつながる。

そうした情報発信の課題解決のための対策や政策提言などの内容に広げることで、多くの人たちが参加できるように活動の見える化や共有化を図るために事業を行う。

### (1) 情報収集と発信

「広報誌にじまち」(年4回)と不定期の情報紙「にじまちぷらす」、月1回のつれづれ日記の発行、ホームページ、facebook、などの発信を行う。

昨年導入したデータベースソフトを名簿管理だけでなく、更に活用できるように、導入希望がある団体にもこのデータベースの活用を勧める。

これまでのホームページをリニューアルして中間支援機能に対応したものにつくり代える。そのためにWEBマーケティング部門のスキルアップを図り、この部門の支援の事業化も検討する。また、認定NPO法人取得の機会に、新たな団体パンフレットを作成し、活動を見える化し、共感の輪を広げることで会員拡大を図る。

市民活動・地域活動に関する情報収集を行い、様々な媒体を活用して情報発信・情報提供を行うと共に、市民活動団体の情報公開に対する支援を行う。

- ・地域情報ポータルサイト「東おうMe!!」の運営と移行
- ・市内外の市民活動・地域活動等に関する情報の収集および発信
- ・市民活動に関する機関誌の発行・配布(年3回以上、配布は市が協力)
- ・活動団体のHP制作等の情報公開・発信の支援

### (2) パブリックアクセス

パブリックアクセス協議会では、市民が自ら情報発信を行うことを支援している。そのひとつとして、スマイルネットで市民が自主的に投稿できる番組を運営しているが、年度末には「まちのわコンテスト」を開催し優秀動画を表彰することで、市民による情報発信を推進する。

引き続き動画制作講座やスマホ動画編集講座を通して市民が気軽に動画に触れる機会をつくる。折を見て、スキルの向上、機運の醸成を図る。また協議会メンバーの先進地への視察とともに、相談に対応していく。

- ・東近江市パブリックアクセス推進協議会の運営支援

## 【支えあう】

日本NPOセンターの中長期ビジョンの中では、5年後のNPOが目指す姿として、信頼性、先駆性、自立性、地域性、協働性、社会変革性をキーワードとして謳っている。まちづくりネット東近江もこのキーワードを共有して地域づくりを目指す。

そのため、市民活動・地域活動の実施・参加に関する相談、団体の組織化・運営・法人化

等に関する各種の相談と支援を行う。

### (1) 相談事業相談・コンサルティング

相談事業は、中間支援として市民のニーズを知る機会である。今年度は地域コミュニティ団体への支援に取り組みも強化し、まちづくり協議会で求められているニーズを知るためにヒアリングを行う。また、NPOについては日常の取り組みの中からニーズを拾い上げる。

- ・窓口・電話による多様な相談への対応
- ・各種の相談要請に対するアドバイザーの派遣、専門家の仲介

### (2) 人材育成・研修

情報発信力の向上を図るため、引き続きチラシ講座を開催するが、スタッフが講師になり開催する機会も作る。会計講座は会計相談とともに引き続き行う。にじまちサポーターズの募集にあたり、団体にとって必要な資金計画、資金獲得をめざすための各種補助、助成金等の説明会講座を開催する。

市民活動を始めたい、何から始めればよいかわからない人向けにひよこサロンは引き続き行うが、そういう人たちへ届く広報をどうするかは課題である。facebook 初歩講座は身近な情報発信を行うために有効なツールなので引き続き開催する。

市民活動・地域活動を担える人材の育成と団体運営や活動の活性化に資する研修や講座の運営は要望があればできるだけ進めるように行いたい。

- ・市民向けに市民活動の普及啓発を図る研修会の開催
- ・資金獲得、団体運営（組織化、情報発信、労務管理、会計事務等）に関する講座の開催

### (3) コミュニティビジネスセミナー

コミュニティビジネスセミナー及び相談会を行い、市民活動団体の事業継続のための支援を行う。このセミナーでは、地域で活動したいと考える個人や団体を発掘する意味もあるが、広報が課題である。また、事業化にはさまざまなコーディネイトが必要になるので、専門家を派遣してアドバイスをいただく機会は引き続き行いたい。

- ・コミュニティビジネスの起業・経営に関するセミナーの開催
- ・コミュニティビジネスの事例収集と紹介

### (4) 活動資金の調達支援

にじまちサポーターズは6回目を迎える。今年度から認定NPO法人となったことから、寄付を広げていく。団体の寄付集めは大変という印象があるが、今年度は、各種補助金、助成金説明会で資金計画を開催して募集を増やす努力を行う。

団体の中間発表会は、検討委員会の中で開催し、事業に対するアドバイス場としている。

募金箱はそのお店からの寄付金として領収書やお礼状を出して寄付者との関係性を深める。データベースの活用を行い、募集段階からこれまで寄付をいただいた、団体、個人の連携を強めることはこれまで出来てなかったもので、認定NPO法人の機会に取り組む。まちづくりネットが直接寄付集めをする場合は、にじまちサポーターズのPRの機会とする。

- ・ 各種助成金・補助金の情報提供と申請事務等の指導・支援
- ・ 東近江市わくわく市民活動支援補助金審査会・発表会の運営協力
- ・ 事業指定寄付制度「にじまちサポーターズ」の運営・普及
- ・ 「にじまちサポーターズ」の評価と持続可能な制度構築に向けた検討
- ・ 新たな資金調達制度の調査研究

#### (5) スタッフのスキルアップ

研修の機会は積極的に参加する。また事業コンサルティングの事前相談をヒアリングすることで、学びとコーディネート力を養う。

- ・ 中間支援組織の人材育成・能力開発に関する研修の受講

#### (6) 東近江三方よし基金との連携・協力

公益財団を目指すこの基金とともに、東近江の自然環境をベースに、それらを保全し活用する取り組みや、人と人・人と自然をつなぐ取り組みなどを支援する。地域で自立した団体の育成は、資金の支援とともに寄り添い型のソフト支援が重要になる。当団体はこれまでのノウハウを活かした寄り添い支援を、三方よし基金と連携して行う。

- ・ 東近江三方よし基金との連携

### 【基盤強化】

#### (1) 組織強化

法人設立5周年事業は、会員とともに総会時にみんなで話し合う機会を作り、まちづくりネット東近江の応援団となってもらうべく、当団体のビジョン、ミッションをもとに、今後のまちづくりを話し合う。

3月に認定NPO法人が認証されたので、この機会に寄付集めを通して、まちづくりネット東近江の認知度を上げていく。視察コーディネート事業に向けての調査は引き続き行う。市外や県外からの視察者の対応を行うことで、東近江市の市民活動団体の紹介と収益事業への展開の可能性を探る。観光物産課からの新たな委託は当法人の特色を生かした事業となりえるように活動する。

市役所から場所が変わり2年が過ぎた、市民活動の拠点として幅広くPRを行うと共に、この場の活用を引き続き検討する。

### 3. 事業の進め方

事業に関しては、別紙に「2018年度組織目標進行（管理）計画表」作成し、運営委員会や事務局会議で適時確認をしながら、進めていく。詳しい事業計画内容については、事業遂行計画書に記載する。

### 4. 会議の開催について

会議	回数（時期）	参加者
総会	年1回（5月）	運営委員、会員、事務局員
運営委員会	年5回（4, 6, 9, 1, 3月）	運営委員、事務局員
事務局会議	随時	代表、副代表、市の担当課、事務局員

### 5. 年間スケジュール概要

月	内容
4月	SOYORI～創寄り～（11日） 助成金講座①助成金・補助金説明会（13日） 助成金講座②申請書の書き方（24日）
5月	動画出前講座 facebook講座 にじまちサポーターズ選考委員会 会計相談会 5周年事業及び総会（19日） 助成金講座
6月	SEA TO SUMMIT（2.3日/協力） コミュニティビジネスセミナー 動画相談会 わくわく市民活動補助金審査会 協働大賞募集開始 にじまちサポーターズ戦略会議 会計講座 ひよこサロン
7月	星の観察会応援講座（6日/共催） チラシ講座 コミュニティビジネス支援会 コミュニティビジネス相談会 動画出前講座 にじまちサポーターズ開始

8月	WEBマーケティング講座 会計相談会 ひよこサロン
9月	にじまちサポーターズ戦略会議
10月	コミュニティビジネス相談会 動画相談会 協働大賞ヒアリング 助成金講座 ひよこサロン
11月	二五八祭りに参加（3日/寄付集め） 会計相談会
12月	わくわくこらぼ村、 にじまちサポーターズ戦略会議 ひよこサロン
1月	にじまちサポーターズ中間発表会 facebook 講座 会計決算講座 助成金講座 にじまちサポーターズ中間発表会 会計相談会
2月	コミュニティビジネス相談会 動画相談会 ひよこサロン
3月	まちのわコンテスト SOYORI～創寄り～